

特殊小型船舶操縦士試験について

小型船舶操縦士試験機関
一般財団法人 日本海洋レジャー安全・振興協会

I 一般的な注意事項

- 集合時刻には遅れないようにしてください。遅れた場合、受験できないことがあります。
- 試験中、次の事項に該当するときは、試験が途中であっても試験を中止することがあります。
 - 試験員の指示に従わないとき。
 - 不正行為と疑わしき行動があったとき。
 - 受験者の心身の状態により、試験続行が困難であると試験員が判断したとき。
- 試験中の私語、喫煙は禁止します。飲食はご遠慮ください。また、待機中であっても、試験会場では静粛にし、私語は慎んでください。
- 身体検査、学科試験、実技試験それぞれの試験の都度、受験票の写真により本人確認を行いますので、必ず**受験票**を持参してください。試験中は受験番号でお呼びします。
- 合格発表等について
 - 身体検査の合格発表は、試験会場で口頭により行います。学科試験及び実技試験の合格発表は、合格発表日時に、試験機関の各事務所で受験番号をもって行います。また、試験機関のウェブサイトでも、受験番号により合格発表速報を確認することができます。(https://www.jmra.or.jp)
 - 合格の有効期間は、身体検査が1年、学科試験及び実技試験が2年です。再受験する場合には、有効期間内の試験を省略することができます。
 - 身体検査、学科試験及び実技試験の全てに合格した方には、操縦試験合格証明書を発行します。操縦試験合格証明書の有効期間は1年ですので、必ず1年以内に免許申請を行ってください。

II 身体検査について

- 身体検査は視力、色覚、聴力及び疾病並びに身体機能の障害の有無について検査を行います。眼鏡等が必要な方は必ず持参してください。
- 合格基準
 - 視力：両眼ともに0.5以上であること。(矯正視力で可)
 - 色覚：夜間において船舶の灯火の色を識別できること。(色覚補正メガネの使用可)
 - 聴力：5メートルの距離で話声が聞こえること。(補聴器の使用可)
 - 疾病及び身体機能の障害の有無：疾病又は身体機能の障害があっても、軽症で業務に支障をきたさないと認められること。
※ 上記基準を満たすことに不安をお持ちの方は、試験機関の各事務所に設置する身体適性相談コーナーで事前にご相談ください。また、身体の状態に応じて、操縦免許に条件(限定)が付く場合があります。
- 身体検査に合格しない場合は、学科試験及び実技試験は受験できません。

III 学科試験について

- 受験科目と試験時間
学科試験には、小型船舶操縦者の心得及び遵守事項、交通の方法、運航があり、試験時間は、50分です。ただし、既に操縦免許を受有している方や海技士(航海)の資格をお持ちの方は、一部の試験科目が免除され、試験時間も短縮されます。

2 配点と合格基準

	小型船舶操縦者の心得及び遵守事項	交通の方法	運航	合計
科目別の配点	120点	100点	180点	400点
合格基準 (全て満たすこと)	12問中6問以上	10問中5問以上	18問中9問以上	40問中26問以上

3 受験上の注意事項

- 鉛筆又はシャープペンシル、消しゴムを各自で準備してください。試験中の貸し借りは禁止します。
- 通信や計算など特殊な機能を備える機器は一切使用できません。また、携帯電話を時計がわりに使用することはできません。音が鳴らない状態にして、学科試験の説明開始前までにしまっておいてください。
- 試験開始後は、試験員から指示があるまで退出することはできません。退出した時点で学科試験は終了となります。

IV 実技試験について

- 実技試験は、3人乗りのシッティングタイプの水上オートバイを使用して、受験者1人に対し試験員1人が同乗して行います。試験時間は概ね15分です。

2 配点と合格基準

	小型船舶の取扱い	操縦	合計
科目別の配点	80点	220点	300点

※ 合格基準：成績の合計が配点合計の70%以上であること

3 受験上の注意事項

- 服装は雨や波しぶきで濡れても良いもので、落水時の衝撃に耐えうるものを着用してください。水着のみの着用や裸足、サンダル履きをご遠慮ください(かかとが固定できるものは可)。
- 気象、海象等の影響により、試験を安全に実施できないと判断した場合は、試験を中止することがあります。
- 貴重品類の管理には十分にご注意ください。紛失や盗難についての責任は試験機関では負いかねます。

4 実技試験中の注意事項

- 指示された項目が終了したら、その都度、試験員に知らせてください。
- 試験員からの指示や質問が聞き取れない場合には、遠慮なく聞き返してください。
- 小型船舶の取扱いに関する試験には時間制限(時間は下記実技試験の概要参照)があります。実施途中であっても打ち切ることがあります。
- 操縦中は、他船の動静や水面の状況等にも十分注意し、安全走行に努めてください。
- 操縦中に試験員が肩を叩いた場合は、速やかに停止してください。
- 安全を確保するため、試験員が緊急エンジン停止スイッチを作動させることがあります。
- 試験中に発生した受験者の事故について、その原因が受験者ご本人の操縦又は過失に起因する場合は、試験機関は一切その責任を負いません。当該事項にご同意いただけない場合は、受験していただくことができません。

5 速力について

- 「中速」とは、滑走状態を保つことができる程度の速力(概ね25～40km/hの範囲内)です。ただし、機種によって若干の示度差がありますので、使用する機種の数値範囲については、試験員の指示に従ってください。
- 「停止」とは、最低速(スロットルオフで、わずかに前進する程度の速力)の状態をいいます。

6 慣熟走行について

操縦の試験を開始する前に、操縦装置や速度の感覚を確認する時間があります(この間は採点の対象とはなりません)。試験員の指示により、低速又は中速で走行したり、ハンドルを左右に切ったり旋回することによって、操縦装置の感触や速度の感覚をつかんでください。

7 実技試験の概要

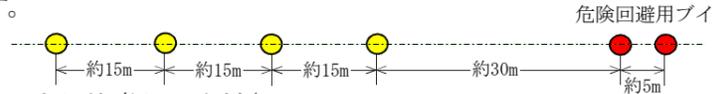
- 小型船舶の取扱い
 - 発航前の点検**：陸上で水上オートバイを使用して、指示された箇所についての点検を行います。エンジン、法定備品・法定書類、艇体から、2箇所ずつ点検箇所を選択して指示します。(点検箇所は裏面参照)(2分)
 - 結索**：もやい結び、巻き結び、一重つなぎ、クリート止めから1つ選択して指示します。(30秒)

3) **機関運転**：エンジンの始動・停止を行います。始動は、緊急エンジン停止コードを装着し、シフトを備えている場合はリバースに入れ、同乗者や周囲の安全を確認してから行います。(各30秒)

(2) 操縦

1) **安全確認**：走行中は、常に適切な見張りを行うようにしましょう。発進や停止、単旋回、危険回避など、今までの状態とは異なる動作をとる前には、十分に周囲の安全確認を行ってください。ただし、コース走行の8の字旋回とスラロームを行っている間を除きます。

2) **コース走行**：コース走行は、概ね下図に示す間隔で設置したブイを使用して、コース1、コース2の順に基準コースを走行します。



◎ コース走行では次のことに注意してください。

- i) コース走行では、危険回避用ブイ(約5メートルの間隔で並んだ2つのブイ)の横を、発進位置及び停止位置とします。発進は危険回避用ブイの左右どちら側からでもかまいません。
- ii) コース走行は裏面の実施概要に示した基準コースに沿って中速で行ってください。旋回時には旋回半径等を考慮し、中速の範囲内で速力を調整してください。
- iii) コース走行に失敗すると再試験となります。コースを間違えた場合、ブイに衝突した場合、同乗者を含む乗艇者が落水した場合、指定された速力で走行できなかった場合、基準コースを大きく逸脱した場合、危険回避の方法が適切でない場合はコース走行失敗と見なします。

コース1 (①発進 → ②直進 → ③単旋回 → ④危険回避 → ⑤単旋回 → ⑥停止)

- ① **発進**：目視により周囲及び同乗者の安全を確認した後、発進します。
- ② **直進**：ブイ列と平行に中速で直進します。
- ③ **単旋回**：旋回方向の安全を確認した後、一番外側のブイから10メートル程度離して中速で旋回します。
- ④ **危険回避**：③の単旋回終了後、ブイと平行に走行し、4つ目のブイあたりで外側の危険回避用ブイに向かいます。内側のブイの手前付近で素早く旋回方向の安全確認をし、ハンドルを切ると同時に加速しながら2つのブイ間を通過します。

この回避動作は、直前に迫った障害物を、加速することにより急旋回して避ける方法です。回避の際に加速することが重要なポイントとなりますが、過剰な加速によって振り落とされたり転覆することのないように、速力を調整しましょう。自身や同乗者の安全に対する配慮を怠ってはなりません。
- ⑤ **単旋回**：危険回避の後、もう一度一番外側のブイで単旋回を行います。
- ⑥ **停止**：後方の安全を確認した後、停止します。

コース2 (①発進 → ②8の字旋回 → ③スラローム → ④停止)

- ① **発進**：目視により周囲及び同乗者の安全を確認した後、発進します。
- ② **8の字旋回**：等間隔に並んだ4つのブイを使って、中速による8の字旋回を行います。ブイからの距離は概ね10メートル以内で、4つのブイの中心を通過して、8の字を描くように操縦し、左右の旋回径が等しくなるようにします。
- ③ **スラローム**：等間隔に並んだ4つのブイを使って、中速によるスラローム走行を行います。8の字旋回の最後の旋回を行っている状態からそのまま連続して(発進・停止位置には戻らずに)開始します。ブイからの横間隔は約2～3メートルで、ブイとブイの間を通り抜けるようにリズムカルに操縦します。
- ④ **停止**：後方の安全を確認した後、停止します。

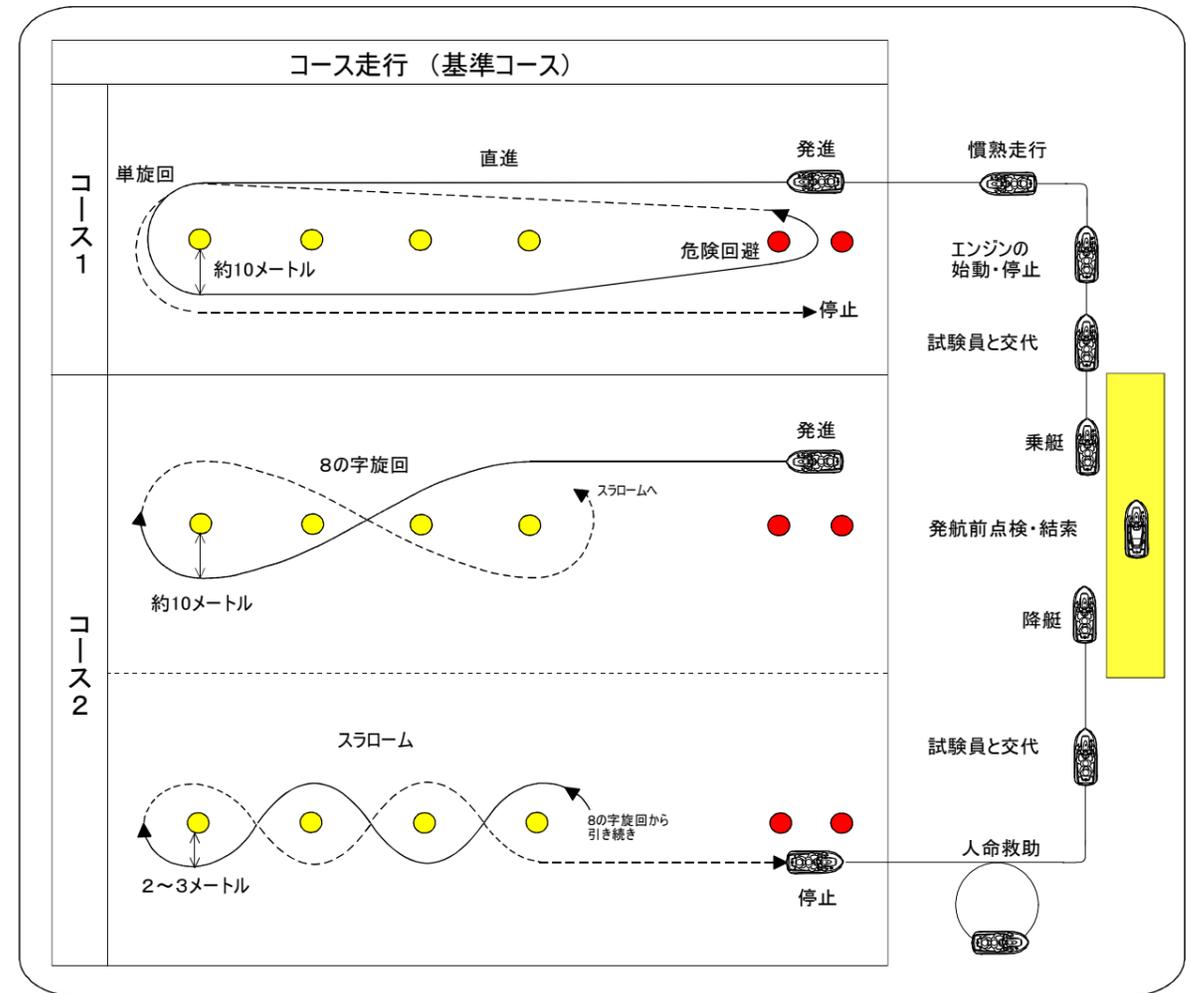
3) **人命救助**：走行中に要救助者を発見したという想定で、要救助者に見立てたブイを使用して人命救助を行います。試験員がブイの位置を知らせますので、救助に向かってください。救助は左右どちらの舷からでもかまいませんが、ブイの収容は操縦者が行ってください。必要に応じてエンジンを停止したり、後進を使用してもかまいません。

救助に失敗した場合は、直ちに再救助に向かってください。ブイを見失った場合や、ブイを行き過ぎてしまった場合、あるいはブイに激しく接触した場合は救助失敗と見なします。

※発航前の点検箇所一覧

エンジン		法定備品・法定書類	艇体
1	ビルジ	1	ライフジャケット(救命胴衣)
2	燃料油量	2	笛(音響信号器具)
3	燃料タンクキャップ	3	信号紅炎
4	燃料コック	4	係船ロープ
5	水分離器	5	船舶検査証書
6	エンジンオイル	6	船舶検査手帳
7	バッテリー	7	船舶検査済票及び船舶番号
8	緊急エンジン停止コード		
9	冷却水量		
		1	ハル
		2	シート・ハッチ
		3	ハンドルバー
		4	スロットル
		5	シフト
		6	ジェットインテーク
		7	ジェットノズル
		8	ドレンプラグ

《 実技試験実施概要 》



- (注1) 乗艇する前にストレッチなどの準備運動をしておきましょう。
- (注2) 実技試験実施概要は一例であり、試験項目の順序は水域の状況等によって変わります。

問合せ先：試験機関ウェブサイト内「お問い合わせ」又は main@jmra.or.jp へ。
 ただし、試験問題の内容に関する質問にはお答えすることができません。
 台風等の災害時における試験の実施状況については、右のQRコード又は <https://www.jmra.or.jp/calloff> からご確認いただけます。

